わくわく子育て応援プログラム

あそびはまなび②

遊具も道具もあまり必要なく、ご家庭の中のちょっとした時間に楽しめる遊びを紹介します

① 手遊び
（♪トントンひげじいさん、♪むすんでひらいて、♪一本橋）

② 積み木で遊ぼう
積み木の音を確かめよう
並べてみよう、積んでみよう、倒してみよう
大人が積んだものを倒してみよう

③ 積み木を片付けよう
カゴに並べて入れよう

今日は“つみき”を使って遊びましたが、家では遊びにくいなあと思われていませんか？

つみき遊びは、実はいろいろな年ごろの子どもたちが楽しめる遊びです。

一番初めは、噛んで感触を確かめたり、叩き合わせて音を楽しんだりします。

その後、積木を積んだり、並べたりして楽しめるようになり、だんだんと出来上がった物を「おうち」「くるま」と見立てて遊べるようにもなってきます。

一人で遊んでいると飽きて、投げてしまうようなこともありますが、大人が一緒に遊んでモデルを見せるといろいろな発想が引き出せます。

手あそび：「ひげじいさん」

♪ トントントントン　ひげじいさん　　トントントントン　こぶじいさん
トントントントン　てんぐさん　　トントントントン　めがねさん
トントントントン　手は上に　　キラキラキラキラ　手はおひざ

大人が見せる見本と同じ位置に手が行くように促してください。
自分の身体のイメージを養うのに良い遊びです。
「手はおひざ」の部分を、別の「あたま」「おなか」など
と変えるのも楽しいです。

子どもにとってのあそびとは、

◎調整力（切り換える力）の根っこになる

「全部、積めたね」
「靴下が履けたね」など、

しっかりと終わりを言葉にして伝えます。その後に、「できたね」と大いにほめた上で、

「じゃあ、おしまいにしようか」「あと1回ね」と
切り換えるための言葉をかけます。

遊び（操作）の“終わり”が分かることが、子どもたちが活動や気持ちを切り換える土台になります。

「ほめるポイント」は、特別に優れたことではありません。

- して当たり前と思える行動をしているとき
- してほしくない行動をしなかったとき
- いつもより少し頑張っているとき

子どもがしたことを、そのまま言葉にして、
「〇〇〇、できたね。すごいね」 と声をかけてください。

すこし大きくなれば、「お手伝い」に取り組んでみてください。

お母さんがしていることと、同じことをしたいという気持ちが出てきた時には、ぜひとも挑戦してください。
手を使ったり、手元をしっかり見たりすることが促せます。
また、お手伝いは、「全部、かたづけられた」など終わりが分かりやすいので、達成感を持ちやすいです。